

## 日本工業大学 平成 30 年度 教員免許状更新講習 募集要項

日本工業大学教職教育センター

日本工業大学では、平成 30 年 7 月 30 日～8 月 3 日の日程で教員免許状更新講習を実施いたします。講習は「必修」（6 時間）、「選択必修」（6 時間）、「選択」（18 時間）の 3 領域からなります。本学では、高等学校「工業科」及び中学校「技術科」の教員を主な対象として、これら 3 領域の各講習を開設いたします。

受講を希望される方は以下の要項をよく読んでお申し込みください。なお、教員免許更新制の詳細については文部科学省のホームページをご覧ください。

### 開設する講習

- |             |         |   |
|-------------|---------|---|
| 7 月 30 日（月） | 必修講習    | 「子どもの発達に関する課題」<br>「子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方」<br>「国の教育政策や世界の教育の動向と教員としての子ども観、教育観等についての省察」 |
| 7 月 31 日（火） | 選択必修講習① | 「家庭学習指導との連携方策」<br>「学校と家庭との連携（特別支援を含む）」  |
|             | 選択必修講習② | 「学校を巡る近年の状況の変化」<br>「様々な問題に対する組織的対応の必要性」   |
| 8 月 1 日（水）  | 選択講習 A  | 「ナノ研究が支えるものづくり最前線」  |
|             | 選択講習 B  | 「電気電子通信技術の現状と将来」  |
|             | 選択講習 C  | 「放射線の種類とその性質」   |
| 8 月 2 日（木）  | 選択講習 D  | 「知能機械技術の現状と将来」  |
|             | 選択講習 E  | 「テキスト処理技術」  |
|             | 選択講習 F  | 「材料と加工に関する技術」   |
| 8 月 3 日（金）  | 選択講習 G  | 「機械工学におけるシミュレーション技術」  |
|             | 選択講習 H  | 「地域の暮らしと建築空間」   |
|             | 選択講習 I  | 「生物育成に関する技術」  |

\*1 講習だけでも受講できます。

\*選択必修講習及び選択講習は 1 日に 2～3 講習ずつ開講されますが、受講できるのは 1 日 1 講習のみです。

### 募集定員

必修講習 60 人

選択必修講習（①又は②） 各 30 人

選択講習（A から I まで） 各 30 人

\*各講習とも、受講希望者が 5 人未満の場合には開講しないことがあります。

## 会場

日本工業大学（宮代キャンパス） ＊アクセスは本学ホームページをご覧ください。

## 受講資格

### ◎旧免許状（平成 21 年 3 月 31 日以前に授与された免許状）を持つ方

生年月日が以下のいずれかの期間内である現職教員（教諭、常勤講師、非常勤講師、実習助手など）

昭和 38 年 4 月 2 日～昭和 40 年 4 月 1 日

昭和 48 年 4 月 2 日～昭和 50 年 4 月 1 日

昭和 58 年 4 月 2 日～

### ◎新免許状（平成 21 年 4 月 1 日以降に授与された免許状）を持つ方で、免許状に記載されている有効期間満了日の 2 年 2 か月前の方から 2 か月前の方

\*受講資格を有する方もいますので、個別に各教育委員会等にお問い合わせください。また、文部科学省のホームページでもご確認の上お申し込みください。

（文科省 HP [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/koushin/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm)）

## 受講料

必修講習：6,000 円

選択必修講習：6,000 円

選択講習：1 講習につき 6,000 円

\*全日程（5 日間）を受講する方は 30,000 円となります。

\*受講料の振り込み期限は 6 月 22 日（金）です。振り込み先は受講許可後にお知らせします。期限までに振り込みがなされない場合はキャンセルとみなします。

\*受講料の振り込み手数料、受講申請書等の郵送料は受講生がお支払いください。

\*7 月 27 日までのキャンセルについては受講料の一部（1 講習につき 5,000 円）を返還します。7 月 28 日以降のキャンセルについては受講料の返還はできません。

## お申し込み方法

募集期間は文科省の定めにより、本学の場合、5月16日(水)からとなります。それ以前には受付できませんので、ご了承下さい。

**①受講希望者から大学へ**：下記の募集期間中に、(a)自宅郵便番号、(b)自宅住所、(c)電話番号（携帯可）、(d)氏名、(e)フリガナ、(f)生年月日、(g)勤務校、(h)所持する免許状の教科、(i)受講を希望する講習名を、電子メールにて [menkyo@nit.ac.jp](mailto:menkyo@nit.ac.jp) に送信してください。本学卒業生の場合は(j)卒業した学科と(k)卒業年月、氏名が変わった方は(l)卒業時の氏名も記入してください。

なお、電子メールの件名は、「**免許状更新講習申し込み（受講希望者の氏名）**」として下さい。

<申し込みメールの記載例>

件名：免許状更新講習申し込み（日工 太郎）

本文：(a) 345-8501

(b) 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1

(c) 0480-33-XXXX

(d) 日工 太郎

(e) ニッコウ タロウ

(f) 昭和 49 年 4 月〇日

(g) 埼玉県立〇〇〇〇工業高等学校

(h) 中学校 1 種「技術」、高校 1 種「工業」

(i) 必修講習、選択必修講習①、選択講習 A、選択講習 D、選択講習 G

(j) 電気電子工学科

(k) 平成 9 年 3 月

(l) 東工 太郎（トウコウ タロウ）

} 本学卒業生は記入ください。

**②大学から受講希望者へ**：受講の可否を電子メールでお知らせします。その際、受講可とされた方には、受講料の振り込み先をお知らせするとともに、添付ファイルにて「受講申請書」と「事前アンケート」を送ります。

\*添付ファイル（PDF 等）を送りますので、受け取れる環境のメールでお申し込みください。

**③受講希望者から大学へ**：受講可とされた方は、「受講申請書」に必要事項を記入、写真を貼付し、勤務する学校の校長から証明を受けたうえで、「事前アンケート」とともに 6 月 22 日(金)<消印有効>までに大学に郵送してください。そして、同日までに受講料をお振込みください。

**④大学から受講希望者へ**：書類と受講料の納入を確認した後、「受講票」と「受講案内」を送ります。「受講票」は講習当日に必ず持参してください。

## 受講募集期間

### ①優先募集（**本学卒業生対象**）

平成30年5月16日(水) ～ 平成30年5月18日(金) (24:00 締切)

\*必修講習の定員（60人）のうち30人、選択必修講習及び選択講習の定員（各30人）のうち各20人は本学卒業生の優先募集枠とします。

\*優先募集枠を超える申し込みがあった場合は、全5日間の講習（必修講習、選択必修講習及び選択講習3講習）を申し込んだ方を優先します。それでも優先募集枠を超えた場合には、抽選によって受講生を決定します。

\*受講の可否は**5月21日**までにお知らせします。

\*優先募集枠から漏れた方は、一般募集（第1期）の対象者となります（改めて申し込んでいただく必要はありません）。

### ②一般募集（**一般受講生対象**）

第1期 平成30年5月16日(水) ～ 平成30年5月18日(金) (24:00 締切)

第2期 平成30年5月21日(月) ～ 平成30年5月23日(水) (24:00 締切)

\*必修講習の定員（60人）のうち30人、選択講習の定員（各30人）のうち各10人を一般募集枠とします。また、各講習において優先募集枠に余りが生じた場合、その人数分も一般募集に割り当てます。

\*第1期に申し込まれた方については、受講の可否を**5月21日**までにお知らせします。

\*第1期に一般募集枠（優先募集の残余分を含む）を超える申し込みがあった場合は、全5日間の講習（必修講習、選択必修講習及び選択講習3講習）を申し込んだ方を優先します。それでも一般募集枠を超える申し込みがあった場合は、抽選によって受講生を決定します。

\*第2期については、定員に達していない講習に限り先着順で受け付けます。

## 講習の日程と内容

1日目 7月30日(月)	2日目 7月31日(火)	3日目 8月1日(水)	4日目 8月2日(木)	5日目 8月3日(金)
1講習	2講習から選択	3講習から選択	3講習から選択	3講習から選択
<b>必修講習</b> 教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項 (6時間)	<b>選択必修講習①</b> 学校、家庭並びに地域の連携及び協働 (6時間)	<b>選択講習A</b> ナノ研究が支えるものづくり最前線 (6時間)	<b>選択講習D</b> 知能機械技術の現状と将来 (6時間)	<b>選択講習G</b> 機械工学におけるシミュレーション技術 (6時間)
	<b>選択必修講習②</b> 学校を巡る近年の状況の変化、様々な問題に対する組織的対応の必要性 (6時間)	<b>選択講習B</b> 電気電子通信技術の現状と将来 (6時間)	<b>選択講習E</b> テキスト処理技術 (6時間)	<b>選択講習H</b> 地域の暮らしと建築空間 (6時間)
		<b>選択講習C</b> 放射線の種類とその性質 (6時間)	<b>選択講習F</b> 材料と加工に関する技術 (6時間)	<b>選択講習I</b> 生物育成に関する技術 (6時間)

※ 各講習とも9:30開始、17:00終了予定です。

### 7月30日(月)

#### 必修講習

「子どもの発達に関する課題」

担当講師：瀧ヶ崎隆司

「子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方」

担当講師：山口 剛

「国の教育政策や世界の教育の動向と教員としての子ども観、教育観等についての省察」

担当講師：當間喜久雄・加藤秀次

「教職についての省察」「子どもの変化についての理解」「教育政策の動向についての理解」「学校の内外における連携協力についての理解」の4事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得を図り、また、今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。

**7月31日(火)**

### 選択必修講習

#### ①コース

午前「家庭学習指導との連携方策」

担当講師：小山将史

午後「学校と家庭との連携（特別支援を含む）」

担当講師：松本くみ子

授業と連携した家庭学習を進めるにあたり、学習環境をキーワードに、学校と家庭が連携・協働するための方策を検討する。また、インクルーシブ教育システムの実現に向け、学校・家庭・地域が相互に連携することが求められている。そこで、特別な支援が必要な子どもへの支援を中心に、学校と家庭、医療機関等の効果的な連携のあり方を、事例を交えながら学ぶ。

#### ②コース

午前「学校を巡る近年の状況の変化」

担当講師：加藤秀次・當間喜久雄

午後「様々な問題に対する組織的対応の必要性」

担当講師：岩崎利信・渡辺 勉

「学校を巡る近年の状況の変化」「様々な問題に対する組織的対応の必要性について」を柱に、学校の内外における連携協力についての理解、学校段階間の接続、保護者等からのクレーム対応および学校における諸課題を取り上げ、教員に求められる。

**8月1日(水)**

### 選択講習 A「ナノ研究が支えるものづくり最前線」

担当講師：白木将・新倉謙一

これからのものづくりは機能の追求だけでなく、安全性・低環境負荷・持続可能性などが強く求められています。これらの課題を解決するためには、ナノメートルスケールでものを作り、それら进行操作・分析する技術が必要になります。本講習では、本学ブランディング事業である「全固体電池の開発」の他、「生物に学ぶ低環境負荷なものづくり」を主な例に挙げ、大学で進められている先端ナノ研究について講義します。

### 選択講習 B「電気電子通信技術の現状と将来」

担当講師：吉野秀明・竹村暢康・竹本泰敏

電気電子工学の最新技術について講述する。①情報通信技術（ICT）の中核をなす情報ネットワークを支える基盤技術について講義する。②無線通信に関する内容として、移動体通信技術の変遷及び動向やマイクロ波を用いた電波応用技術について講義する。③エネルギーセキュリティと電力発生（火力発電）、電力系統技術、スマートグリッド、再生可能エネルギー（小水力、太陽光、風力）に関する内容と最近の動向について説明する。

### 選択講習 C「放射線の種類とその性質」

担当講師：梅谷篤史・服部邦彦・佐藤杉弥・狩野みか

放射線は工業製品や医療診断などでも日常使われるようになっているが、人体に及ぼす影響が大きいことから取扱いには注意を要する。特に、目に見えないため、安全のためにその性質と測定法を正しく理解する必要がある。本講習では、放射線の種類と性質、および、測定法の基礎について解説する。また、最近関心の高い環境放射線を実際に測定し、誤差を考慮した正しい結果の見方について学ぶ。

## 8月2日(木)

### 選択講習D「知能機械技術の現状と将来」

担当講師：吉澤信幸・於保 茂

知能機械技術について、発展経緯と現状、将来展望を講義する。知能機械の代表例は自動車やロボット、産業機械である。ここでは知能機械制御の基盤である①古典・現代制御技術、コンピュータとともに発展著しい②様々な知的制御技術、地球環境とエネルギー問題に関わる③自動車のEVシフト（電動化）、更に近年進歩の著しい人工知能を用いた④自動車の自動運転について述べる。また今後の社会・産業界の変化を踏まえて、これからの教育に対する期待についても触れる。

### 選択講習E「テキスト処理技術」

担当講師：大宮 望・佐藤 進也

計算機が処理するデータには画像や音声など様々な種類があるが、その中でも基本的なデータの一つであるテキストデータの処理技術について講述する。まず、文字のエンコードや形態素など、テキストデータそのものとテキスト処理に関する基本的な概念を解説する。その上で、業務データ、文学作品、Webページといった異なるタイプのデータを題材に用い、これらのデータを「活かす」技術について講義する。

### 選択講習F「材料と加工に関する技術」

担当講師：森山富治男・長島佳久

主に中学校技術科担当者のための講座である。従来、対象材料としては、木材を中心に扱われてきたが、社会生活や家庭生活の変化に伴い、多用されているアクリルも併用し、材料と加工および材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作を扱う。加工に必要な道具などを実際に活用して、工夫して製作することの喜びや緻密さへのこだわりを体験させる指導方法のポイント等に触れる。

## 8月3日(金)

### 選択講習G「機械工学におけるシミュレーション技術」

担当講師：瀧澤英男・加藤史仁・小崎美勇

本講義では機械工学における数値シミュレーション技術について学ぶ。①金属加工におけるCAEの利用例について、基礎と利用実態について解説する。②身の回りの機械にセンサとして組み込まれているマイクロマシン（米粒よりも小さな機械）の構造や駆動メカニズムについて、シミュレーションを用いた設計事例を紹介する。③最近の「光」を用いた測定を解説し、設計や現象理解に用いられる光波シミュレーションについて説明する。

### 選択講習H「地域の暮らしと建築空間」

担当講師：板橋春夫・足立 真

この講習では、地域における人びとの暮らしと建築空間との関わりにおいて、前後半に分けて2つの視点から講義を行う。前半では、民俗学という文化的視点から、地域社会と人びとの暮らし、誕生から死までの通過儀礼と住まいとの関係について、日本各地の事例を紹介しながら解説する。後半では、建築設計の視点から、地域に開かれた児童福祉施設の取り組みとその空間づくりや、住民主体のまちづくりの事例などについて解説する。

### 選択講習I「生物育成に関する技術」

担当講師：伊藤健司

ここでは、主に中学校技術科担当者や部活動・委員会活動等指導者のための講座である。生物育成に関する技術を利用した栽培方法としては、育成する時期や育成に必要な環境、育成するために必要とする道具・農具・資材（用土類）などを実際に利活用して、指導方法の充実と育成指導のポイント等に触れる。さらに、実践的な指導法についても解説する。



## 申込から受講までの流れ

<確認> 受講資格を確認して下さい。不明な場合は各教育委員会へお問い合わせください。

<申込> 受講を希望する講習を選んで、メールにて申込してください。 [menkyo@nit.ac.jp](mailto:menkyo@nit.ac.jp)

5/16 (水) ~ 5/18 (金) ① 本学卒業生優先募集

5/16 (水) ~ 5/18 (金) ② 一般募集第1期

5/21 (月) ~ 5/23 (水) 一般募集第2期 (定員に達していない講習のみ募集)

<手続き> 大学側から送られてくるメールの添付ファイルを印刷し、「受講申請書」「事前アンケート」を 6/22 (金) <消印有効> まで教職教育センターへ送付ください。

また、メール内にある銀行口座へ受講料の振込をお願いします。(納入締切 6/22 (金))

<受講許可> 7月上旬

書類手続きと入金手続きが確認できた方へ書類等をお送りします。(7月上旬発送予定)

<受講> 7/30 (月) ~ 8/3 (金) 講習受講・修了試験 (全日程 9:30~17:00)

<証明書> 8月下旬頃 修了証明書・履修証明書の送付

<更新手続き> 30時間以上の修了証明書もしくは履修証明書を添えて各自で教育委員会等に「更新講習修了確認」の申請をします。各免許管理者が定める申請方法等を確認の上、必ず期限まで申請してください。

## お問い合わせ

日本工業大学 教職教育センター

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1

TEL0480-33-7737(直) FAX0480-33-7744

e-mail: [menkyo@nit.ac.jp](mailto:menkyo@nit.ac.jp)